

大田研究室

（森林政策学・自然資源管理論）

教員名：大田真彦

● どんな研究をしているところ？ どんなことに役立つの？

自然資源は、人間の生活に重要な、様々な生態系サービスを有しています。森林の場合、木材など物質供給、水源涵養、土砂災害防止、レクリエーション、生物多様性保全、気候変動緩和などが挙げられます。

自然資源の状態は、人間活動の圧力との関係で変化します。森林の場合、現在の熱帯の発展途上国など、利用や開発への圧力が強い状況では、減少ないし劣化する傾向にあります。一方、現代日本では、農村部の人口減少や高齢化などの影響で、適正な利用と管理が行われなくなったことによる問題が生じています。その他、土地の所有権、政府の政策実施能力、政治状況など、様々な要素が森林の管理状態には影響します。

本研究室では、**自然資源の持続可能な利用や管理が、どのように促進あるいは阻害されるのか**を研究します。何らかの事例を、**フィールドワークを通して**分析し、政策や社会のあり方に対して、何らかの提言や示唆を提供することを目指します。

研究のキーワードは、**自然資源利用、森林政策、農山村生業、コミュニティ型資源管理、地域認証制度（世界農業遺産、ユネスコ世界ジオパーク等）、グリーン/エコツーリズム、持続可能な開発のための教育（ESD）**などです。

「ローカル」と「グローバル」を、あるいは各地の「ローカル」を繋ぎ、新しいことを生み出せるような人材の育成に貢献したいと考えています。オンラインツールや各種交流プログラム等を用いて、国内外の研究機関や現場と繋がる学習機会を作りたいと考えています。

● 先輩はどんなところに就職しているの？

2022年度に発足した研究室です。2022年度・2023年度の卒業生はいずれも民間企業に就職しています。



インドネシアでの聞き取り調査



インドの林産物市場



日本の過疎地での国際共同フィールドワーク